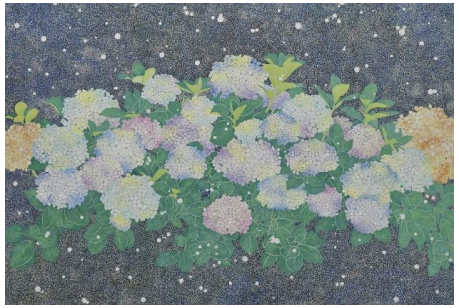
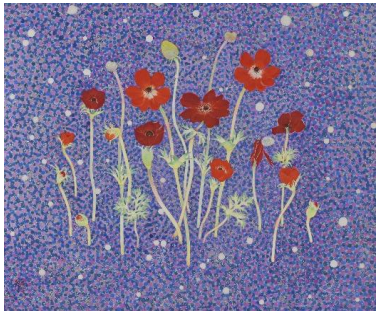


「日々」
120F（130.3×194.0cm）／紙本彩色

あたり前の日常があたり前でなくなり
淡々と過ぎていく日々を深く見つめてみると
そこには「日常の不思議」が広がっていた
日常の不思議をこの世界からすくい上げ
手にとった時、日々は美しく輝きだす

「賛歌」
15F（65.2×53.0㎝）／紙本彩色

ひとも木もみんな同じ地球の中で
もとはみんな小さな粒と波
葉っぱ一枚一枚が大きな世界
きみも同じ
風のように軽やかに
木の葉のように自由に生きて



「生命のリズム」
15F（65.2×53.0㎝）／紙本彩色

からだをくねらせ伸びていく
晴れの日も雨の日もそこに佇む花よ
風にふかれ花びらは舞い
種は次のいのちをつなぐ
強くて優しい花よ

「巡る花　向日葵」
0S（18.0×18.0㎝）／紙本彩色

たねから花が咲き、また種をもつ環を描くように
循環する身近な花の生命のリズムを描きました。

「巡る花　紫陽花」
0S（18.0×18.0㎝）／紙本彩色

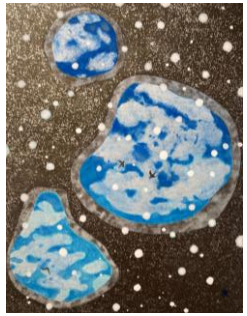
たねから花が咲き、また種をもつ環を描くように
循環する身近な花の生命のリズムを描きました。

「夏のうた」
6F（41.0×31.8㎝）／紙本彩色

種から育ててきた朝顔が
夏の朝いよいよポンと小さな音とともに花開きました。
次の日に花は枯れてしまうけれど、また1つ、2つ、と新しい
花が夏の間じゅう咲いては枯れを繰り返していきます。
その生命の営みの流れはとても強く美しいものです。

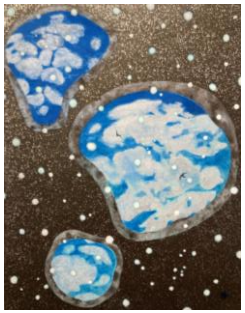
「生命の花」
6F（41.0×31.8㎝）／紙本彩色

私が牡丹を描く度に思い出す速水御舟の言葉に
「絵画こそは概念から生ずるものにあらずして、認識の深奥から情熱の燃えあがってはじめて造り得らるる」
というものがあります。
制作をする上で大切にしている言葉のひとつであり、どんなに身近で小さなものも丁寧に見つめることで大きな深い美が内包されていることを実感しています。



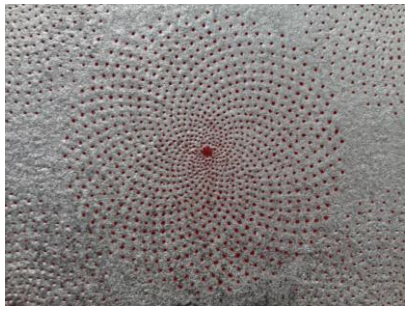
「今日の風景Ⅰ」
6F（41.0×31.8㎝）／紙本彩色

水溜まりの中の世界。
いつでも今日しかない特別な世界を描きました。



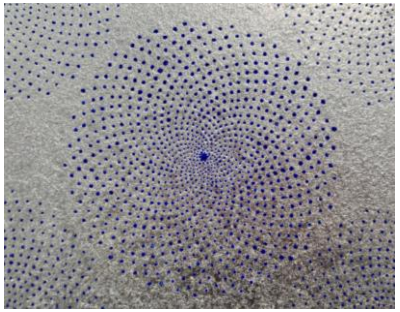
「今日の風景Ⅱ」
6F（41.0×31.8㎝）／紙本彩色

水溜まりの中の世界。
いつでも今日しかない特別な世界を描きました。



「数の世界Ⅰ」
0F（14.0×18.0㎝）／紙本彩色

「一億が一億個あるといくつ？」
「一兆が一兆個あるといくつ？」
などという永遠に続く息子からの質問を考えているうちに
数字に無限に広がっていく世界を感じるようになりました。
数字は自然界がもつ形とも密接に関わっており
この作品ではフィボナッチ数列を数の神秘的なかたちの表出として描きました。



「数の世界Ⅱ」
0F（14.0×18.0㎝）／紙本彩色

「一億が一億個あるといくつ？」
「一兆が一兆個あるといくつ？」
などという永遠に続く息子からの質問を考えているうちに
数字に無限に広がっていく世界を感じるようになりました。
数字は自然界がもつ形とも密接に関わっており
この作品ではフィボナッチ数列を数の神秘的なかたちの表出として描きました。